【都市と美術研究所】2025 年 1 月 28 日 発表要旨

ポーラ美術館の成り立ちと近年の変化

Formation and Changes in Recent Years of the Pola Museum of Art

東海林洋（ポーラ美術館 学芸員）
Yoh Shoji
Curator, Pola Museum of Art

公益財団法人ポーラ美術振興財団ポーラ美術館は 2002 年に神奈川県箱根町に開館した美術館である。富士箱根伊豆国立公園という自然公園の中に位置する施設として、「箱根の自然と美術の共生」というコンセプトのもとに、周囲の景観に配慮して自然環境に溶け込むような外観や構造、地震や火山性ガスといった環境からの影響を軽減するための設計を採り入れている。収蔵する美術作品は、化粧品会社であるポーラ創業家 2 代目である鈴木常司（1930-2000）が 40 年以上にわたって収集した個人コレクションをもとにしており、19～20 世紀のフランス近代絵画を中核にとした西洋近代美術から、日本の近現代洋画、日本画、彫刻、工芸、など幅広い分野の作品を展示公開している。

開館以来、企画展と常設展示によって鈴木常司コレクションを中心に展示公開してきたポーラ美術館だが、2014 年には新たに作品の購入をはじめ、従来のコレクションにはない戦後美術や現代美術を収集している。また 2017 年から、これまでポーラ美術振興財団が海外研修のための助成を行ってきたアーティストによる展示「HIRAKU Project」によって現代アートの紹介をはじめた。さらに 2019 年からは近代美術と現代美術を併置させるグループ展「シンコペーション」展、2021 年には現代アメリカを代表する作家の個展「ロニ・ホーン」展を開催して、近代美術にとどまらない新しい展開を進めている。2024 年 12 月に開幕した企画展「カラーズ―色の秘密にせまる」展では、色彩というテーマのもとに、ポーラ美術館の開館以来のコレクションである印象派から、近年収蔵した戦後美術、そして現代アーティストによる幅広い表現を展観しようと試みようとするものである。この展覧会を中心に、ポーラ美術館による新たな変化について紹介したい。

東海林洋
1983 年北海道生まれ。早稲田大学大学院文学研究科修士課程修了。2011 年より現職。専門は西洋近現代美術。ポーラ美術館で担当した主な展覧会は「シュルレアリスムと絵画―ダリ、エルンストと日本の『シュール』」(2019-2020 年)、「ピカソ 青の時代を超えて」(2022-2023 年)、「モダン・タイムス・イン・パリ 1925ー機械時代のアートとデザイン」(2023-2024 年)など。